浮羽内科医会の現況

浮羽内科医会　会長　矢野敬文

１０年の月日が経つのは本当に早いもので、このコラムでの近況報告は２回目となります。現在、会員は３３名と小さな組織です。１０年前の小泉政権による行政改革の下、平成の大合併により本内科医会は、うきは市（浮羽町と吉井町）、久留米市田主丸町の三町の会員で構成され、二つの行政とのお付き合いをすることになります。

地方の内科医会の存在意義を考えながらの１０年間でしたが、私ども内科（小児科）医の本分はお互いの親睦を図り、医療の研鑽を積みながらその地域で日々診療にあたり、患者さんや家族そして地域に貢献することだろうと思います。この見地から年２回の総会では、副会長、幹事の先生と相談し、春季は学術講演、秋季は保険診療の講演を開催してきました。学術講演については、薬剤メーカー主催の講演会はたくさん開催されていますので、薬剤の宣伝にならないような企画を心がけています。その甲斐あってか、大変好評で講演の開催を楽しみにしておられる会員も少なくありません。この５年間の講演内容は筑後ブロックの年会報に講演記録を掲載していますので、是非、参照いただければと思います。秋季講演はこの３年間は江頭会長、上野専務理事にご出席いただき、当地域会員のレセプト審査結果を中心に解説、ディスカッションを行っています。

我が国の超高齢化社会における社会福祉医療費は年々増加するわけですから、このままでは破綻してしまうことは明らかではありますが、医療介護の現場（ここが大切！）を無視した削減、診療報酬体系は容認できません。どうあるべきか、いつもレセプトを通して考えさせられます。講演終了後の懇親会は畳の上で、杯を交わしながら和気藹々と歓談する場となります。宴会係も承っている不肖私は宴席の前のステージでウクレレ弾き語りもやっておりますが、滑りっぱなしのおやじギャグ、漫談を交えながらの歌と演奏は、会員の先生には迷惑に違いありませんが、みなさん寛容な先生なので物が飛んでくることもなく楽しくプレイしてます。

ある高名な医師の言葉ですが、［最近、世の中のどこを見ても、哲学を持った人が少なくなった。考えながら人生を生きれば、しぜんと哲学を持つようになる。考えて臨床をしていれば、臨床医は医者の哲学を持つ。考えて政治をするものは政治家の哲学を持つ。哲学を持った人間が見当たらなくなったということは、習慣で生き、ただ決まりに従って生きる人間ばかりになったということであろうか。］

医療福祉介護環境の変容の嵐が吹き続ける昨今（嵐の核心には日本の社会保障費用の抑制があるわけですが）、全人的医療を担ってきた内科医としての哲学を改めて問い直す必要があるのかなと思っています。このことを地方の小さな組織で模索していけたらと願っています。

浮羽内科医会　会　長　矢野敬文

副会長　坂本昭彦

幹　事　上田隆　田中浩一　鳥越光　日野和彦